

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 7月13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170502389		
法人名	有限会社 敬友		
事業所名	グループホーム いずみの里		
所在地	札幌市白石区北郷2条1丁目4-32 (電話) 011-871-3615		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年7月10日	評価確定日	平成20年8月11日

【情報提供票より】(20年6月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年11月15日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	17 人	常勤 16人 非常勤 1人 常勤換算 10.7人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての 1～2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	27,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 800 円			

### (4) 利用者の概要(7月10日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	4名	要介護2	8名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	68歳	最高	93歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	大屋医院, 新札幌循環器病院, さくら歯科, 白石脳神経外科病院, 北郷整形外科
---------	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営法人「敬友」は、敬愛・友愛の意のもと、敬う心で尊厳ある暮らしの保障、愛情を持った支援、社会貢献を理念に掲げ「いずみの里」を運営している。ホーム長は、利用者が地域の中で、安心して自由な生活を送り、生きがいを持ち楽しく心豊かに過ごしてもらうための基盤整備に尽力し、町内会、教育機関などとの連携や交流を充実させ、理念の具現化、地域密着型サービスの提供が実現されている。職員は、利用者一人ひとりの想いを受け止めながら、日々の暮らしの中でニーズや課題をきめ細かく点検してより良い支援に結び付けている。地域交流のほか、外出支援にも力を注ぎ、地域住民や家族の方々が、ホームの応援団的存在であることも特徴である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では5つの課題が挙げられ、外部評価を活かして改善計画シートの作成を行なっている。全職員で項目を検討し、改善策を協議しながら改善に至っている状況である。重度化や終末期のホーム方針の文章化では、関係者に意見聴取を実施している。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全員で実施し、ユニット会議で検討され作成している。取り組みの確認により全体を客観的に捉え、運営システムにも着目している。ホーム長は評価のねらいや意義を職員に周知し、評価の課題解決や改善に向けての取り組みに繋げている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>平成18年8月より2ヵ月に一度開催し、運営やケアサービスの現状報告や、毎回会議テーマを掲げ、メンバー間で活発な意見討議が行われている。地元商店の利用や教育機関との交流など、地域密着型サービスの状況報告による意見交換が行なわれ、地域の中で当たり前の暮らしを営む運営体制を整え、メンバーや家族会も積極的に応援し、会議が推進されている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族とのコミュニケーションを大切にして、その都度、意見や質問、要望を伝えてもらう関係作りに努めている。表出された意見は、謙虚に受け止め、発生要因を探り、検討して運営に反映させている。外部・内部に苦情相談機関を明示し、苦情処理規定に則り対処する体制を整えている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームと地域との相互協力や連携により、利用者が地域で暮らし続けるための基盤が構築されている。節句行事での子ども会との相互訪問や、小学生の総合学習の受け入れ、町内の廃品回収や防災運動会などへの積極的な参加や活動、ふれ合いを通じて交流を促進させ、ホームや利用者、地域の人々が双方向で支え合う関係作りに日々取り組んでいる。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中での豊かな生活支援を目指し実践している。ホーム理念である「敬うところ、尊厳ある暮らし」を基盤に、ホームとしての地域密着型サービスの具体的方針を文章化するため、基本方針に盛り込む策定作業が進んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全体会議や申し送りなどの日々の話し合いの中で確認し、実践の中で具現化の取り組みを行なっている。サービス提供場面で理念が反映されているかを点検し、意見統一や振り返りを行なっている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者が地域で暮らし続けるための基盤が構築されている。節句行事での子ども会との相互訪問や小学生の総合学習の受け入れ、町内の廃品回収活動など、積極的な活動やふれ合いを通じて交流を促進させ、ホームと地域の人々が支え合う双方向の関係作りに取り組んでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で実施し、取り組みの確認により全体を客観的角度で捉え、運営のシステムにも着目して実施している。ホーム長は評価のねらいや意義の理解を深め、職員に周知するとともに、課題解決や改善に向け改善計画シートを作成し評価を活かした取り組みに繋げている。		

札幌市白石区 グループホーム いずみの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年8月より2ヵ月に一度開催し、運営やケアサービスの現状報告、地域密着型サービスの取り組み状況など、毎回テーマを持ち活発な意見交換が行なわれている。協議された意見やアドバイスを運営に反映させ、サービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や区の担当者とは、運営やサービス提供で意見をいただくなど、連携を持ち課題の共有化を図っている。また、行政の研修会、勉強会の参加やキャラバンメイト活動に協力するなど協働に努め、取り組みを通じてホームの質の向上に活かしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪や電話以外に、状況に応じて、家族毎にファックスや手紙を送信し、暮らしぶりや健康状況を伝えている。金銭報告とともにホーム便りを毎月発行し、スナップ写真やエピソードを交えて日々の生活の様子を発信している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とのコミュニケーションを大切に、意見や要望を率直に伝えてもらう関係作りに努めている。表出された意見は謙虚に受け止め、発生要因を探るとともに運営に反映させている。外部・内部に苦情相談機関を明示し、苦情処理規定で対処する体制を整備している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員に対し、昇給や資格給制度を導入し、OJTを充実させ離職を抑え、馴染みの職員が継続的に支える体制に努めている。職員は、ユニット合同行事や日々の暮らしの中でほかのユニットの利用者と馴染みの関係性を保ち、やむを得ない職員交代に際して、影響が緩和されるよう配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員育成にビジョンを持ち、高い目標で教育、研修体制の確立を目指している。内部研修や外部研修の学びの機会が確保され、職員の資格取得に向けた支援や、職員間で働きながらお互いの資質を高める職場内教育体制を確保している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ほかのホームとは、文化祭やホーム祭りなどの行事の際、お互いを招待し、相互訪問による交流を深めている。北海道グループホーム協議会や市、区の連絡会、そのほかのネットワークを持ち、研修や学習、意見交換などを通じて連携を図りサービスの向上に活かしている。		
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談から利用に至るまで、利用者の視点に立ち柔軟に支援している。利用者、家族のホーム見学ではゆっくりとお茶をともにして、状況により職員が病院や自宅へ出向き、利用者の求めていることや家族の話を時間を掛けて聴き、信頼関係を築きながら支援に繋いでいる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日常の暮らしをともに過ごす中で、年長利用者から生活の技や知恵、生活文化を教えてもらい、尊敬の念を持ち感謝の意を表わしている。利用者が職員に労いの言葉を掛ける場面もあり、暮らしの中でお互いを分かち合い支えあう関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がどのように暮らしたいか、過去の生活歴や生活記録を照らし合わせ、希望や意向を聴きながら利用者本位の検討を行なっている。希望の表出が困難な場合には、行動やしぐさ、表情などによる訴えを見極め、意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の話をゆっくりと聴き、意向や希望、職員の気づきを毎日のミーティングで共有し、アセスメントの充実に取り組んでいる。豊かな生活の継続性に向け、心身機能の発揮にも視点をおき、利用者主体の介護計画を関係者全員で検討し、チームとして作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のユニット会議でカンファレンスを実施し、介護計画は職員全員で検討、修正を行なっている。期間は1年を設定し経過の中で、検討項目を抽出し、課題や問題点、対策などを協議して評価し、その時々々の気づきや意見、利用者、家族の意向を反映させた臨機応変な対応で見直しを実施している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関以外の通院や、外出理容、外泊や個別の外出支援など、利用者や家族の状況に応じ、柔軟な支援に努めている。また、キャラバンメイト活動の参加や高齢福祉の相談電話対応などのサービスを提供し、ホームの資源を地域に還元している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の医療機関に継続受診の場合は家族、利用者と相談をして支援を行ない、協力医療機関は各科を確保し、往診では月2回の内科医、週1回の歯科医や週1回の口腔ケア指導を受ける体制を整備している。受診結果は受診記録ノートで職員へ伝達し、健康管理の支援に取り組んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期について、入居時にホームの方針を家族に口頭で伝え、状況変化に応じた話し合いを段階的に行ない、利用者、家族、医療関係者と方針について合意を得ている。指針の書式化に向け、職員の看取りの考え方を聴取しながら、ホーム指針作成に着手している。	○	ホーム方針を文書化するため、職員や関係者から意見聴取を行なっている。利用者の重度化や終末期に向けた支援体制の明文化に着手しているので、その取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その人らしいあり方や尊厳が保たれるよう声かけや対応に十分配慮をしている。個人記録の保管、管理の徹底や第三者への情報提供の目的などを明示した、「個人情報提供に関する同意書」を整備し法令を遵守した取り組みが行なわれている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの基本的な一日の流れはあるが、その日、その時の利用者の気持ちを尊重して、できる限りの支援に努めている。また、利用者の状況を見ながら声かけを行なうなど、利用者のペースを大切にしながら柔軟に支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成から後片付けまでの食事一連の作業を利用者一人ひとりの得意分野や意向に配慮し、職員のサポートで一緒に行なっている。旬物の利用やお裾分けの食材も取り入れ、彩りや季節感のある献立を味わっている。外食や行事食、バーベキューなど、食事に変化をつけ楽しむ工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後の時間帯で設定され、状況に応じて夜間帯でのシャワー浴など一人ひとりへの対応を行なっている。気の合う利用者同士での入浴や、一人ひとりに合った声かけの工夫で入浴を促し、意向を聞き安心して楽しい入浴が出来るよう支援している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の気持ちや力を活かした場面づくりを行ない、習慣や希望、有する力を踏まえ把握しながら支援している。家事など暮らしの中での役割や趣味の物品の提供、外出や地域交流での楽しみごとや気晴らしなど、充実感や達成感に配慮し豊かな生活支援に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買物のほか、様々な場所へ目的を持ち外出をしている。初詣、花見、日帰り温泉、町内会行事など五感刺激の機会を取り入れ、喜びや楽しみに繋がるよう支援し、社会や人々との交流により、生活の継続性に努めている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠による心理面での不安感や閉塞感について十分理解し、利用者の外出傾向の把握や職員の見守り、連携を行ない、自由に入出りができるよう支援している。日中、玄関を開放し、夜間は防犯のため20時～7時まで施錠している。		

札幌市白石区 グループホーム いずみの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎日、職員が防火点検表で確認を行ない、年2回消防署の協力を得て実践的な避難訓練を実施しているが、夜間想定には取り組まれていない。利用者と一緒に地区の防災運動会に参加し、町内会の方々とともに防災意識を高め、緊急時での協力関係を築いている。	○	災害はいつ、どの時間帯に発生するか分からず、夜間の時間帯も想定し避難誘導ができるよう、実践的な訓練が必要である。ホームでは、夜間想定訓練を実施したい考えを示しているので実現されることに期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の希望を取り入れ職員が献立を作成している。カロリーや栄養バランスは、1週間ごとに換算票で確認し、次回のメニューに反映している。食事量、飲水量を記録、把握をして、一時的に摂取困難な場合は、栄養補助食品を提供するなど、一人ひとりに対する支援を行なっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にベンチを置き、安楽な出入りや訪問者との交流に配慮し、利用者と職員が全員で楽しく過ごせるようテーブルと椅子の配置や、セミパブリックスペースに工夫をしている。手作りの装飾品や置き物は季節感や生活感を醸し出し、家庭的で居心地よく暮らせる空間作りに努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の意向や家族の協力のもと、一人ひとりに応じた生活しやすい環境を整えている。馴染みの家具や利用者が大切にしている品々が持ち込まれ、生活用品が利便よく収納され、家族からのプレゼントや思い出の写真なども思い思いに飾りつけされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。